

PMI-ACP®合格体験記

PMI 日本支部 アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会

日本アイ・ビー・エム株式会社 松下 望、PMP、PMI-ACP

2015 年 1 月 16 日に PMI-ACP®の資格を取得いたしました。本リレー・エッセイでは、合格体験記と銘打って PMI-ACP を受験することにした動機とその道のりを紹介いたします。

1 PMI-ACP®とは

PMI-ACP®とは "PMI Agile Certified Practitioner" の略で、アジャイルの原則およびプラクティスを理解し基本的なプロジェクトに応用する能力を備えていることを認める、PMI の公式資格の一つです。PMI-ACP は、アジャイルに関するトレーニング、アジャイル・プロジェクトの実務体験、プロジェクトマネジメントのアジャイル・プラクティスに関する試験合格という要件をすべて満たすことを求められるため、信頼性の高い資格となっています。

資格を取得するためには、以下の条件を満たしている必要があります。

- アジャイル・プラクティスの分野で 21 時間以上の研修 (21PDU)
- 過去 5 年、プロジェクト・チームで 2000 時間の経験 (PMP®または PgMP®資格保有者は申請免除)
- 過去 3 年、アジャイル・プロジェクト・チーム、もしくはアジャイルの方法論に関する 1500 時間の経験

試験は 3 時間で、全 120 問の択一方式となっています。合格ラインは PMI から明示的に公表されていませんが、65%以上の正答率が必要とされています。

資格取得後の CCR (Continuing Certification Requirements) については、3 年間の認証サイクルでアジャイルの原則およびプラクティスの分野について 30PDU 取得する必要があります。

詳細は下記リンクを参照ください。

[PMI-ACP 公式サイト \(英語\)](#)

[PMI 認定資格取得ガイド \(日本語\)](#)

2 受験の動機

弊社内の PM コミュニティーでアジャイル開発について調査していたのがきっかけで、アジャイル開発とプロジェクトマネジメントの関係について興味を持ちました。

一般的なアジャイル開発手法では、同一拠点にいる少人数のチームが顧客に対して迅速に価値を届けることにフォーカスしており、プロジェクトマネジメントの考えを取り入れると冗長的なオペレーションとなるため、逆に効率が落ちると言われるケースがあります。

しかし、すべての開発がこの条件を満たすわけではありません。そういう開発では、アジャイル開発手法とプロジェクトマネジメントを融合させた「アジャイル・プロジェクトマネジメント」という考え方も適用できるのではないかと思いつき、調査していた際に巡りあったのが PMI 日本支部の「アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会立上げプロジェクト」でした。

その中で、PMI-ACP というアジャイル・プラクティスに特化した PMI の公式資格があること、およびその勉強会が研究会内で計画されていることを知りました。プロジェクトマネジメントのグローバルスタンダードである PMI が提唱しているアジャイルの考え方を理解してみたく、PMI-ACP 勉強会に参加することを決意しました。

3 PMI-ACP 勉強会

「アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会立上げプロジェクト」で運営していた PMI-ACP 勉強会と、その勉強会から得られた私なりの見解を簡単にご説明します。

PMI-ACP 勉強会

月次開催、1 回 2 時間程度で、教本「[PMI-ACP Exam Prep](#)」を使用した輪講形式で進めました。初回に全体計画の立案と輪講のアサインを行った上で、2 回目以降は章ごとに輪講と章末問題の検討を行い、参加者同士で理解を深め合いました。輪講の資料は Facebook のコミュニティ上で共有する仕組みにしましたが、後日自習するときに役立ちました。

教本も英語、試験も英語となると、私のように、英語が得意ではない人間にとっては苦痛でしかありませんが、そんな中でも継続的に学習し、結果として合格できたのは、勉強会の仲間からの刺激とサポートがあったからこ

そと感じています。理解の促進だけではなくモチベーションの維持にもつながるはずですので、機会があればこのような勉強会に参加するのも手ではないでしょうか。

教本の内容

アジャイルに関する基礎知識だけではなく、PMIらしくPMBOK®に記載されているような内容についても触れているのが特徴です。例えば、一般的なアジャイル開発手法ではほとんど触れられないプロジェクト憲章やEVMの概念についても触れられていますし、PMBOK®でおなじみの「プロフェッショナルの責任と倫理観」についても記載されています。単一のプロジェクトだけではなく開発ライフサイクルを意識した構成となっています。

教本の構造

かいつまんでお伝えすると以下の二つに大分できます。試験結果もこの二つに分けて表示されます。

- 「Tool and Techniques (T&T)」 アジャイルでよく使われるツールと技法、
- 「Knowledge and Skills (K&S)」 アジャイルで知っておくべき知識やスキル（3レベルに分類）

T&TとK&Sのレベル1だけで8割以上の出題を占めますので、その部分を中心に勉強していくのがおすすめです。

試験問題の傾向と対策

教本に記載されている概念や単語を問われるものと、想定ケースにおいてどのような行動をすべきか問われるものとあります。前者は概念や単語をしっかり抑えておけば確実に正答できる問題が多いので、ここで正答率を伸ばすのがよいでしょう。教本の章末問題だけでは量が足りないなので、別途PMI-ACP用の問題集を購入して自習するのがおすすめです。

4 試験準備～当日の流れ

スケジュール	実施内容
2014/03/31	教本「PMI-ACP Exam Prep」を購入
2014/03/31～2014/12/22	PMI日本支部「アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会 立上げプロジェクトPMI-ACP勉強会」参加（計9回）
2014/12/01～2014/12/04	受験時に必要な21PDU取得用オンライン教育コース、および問題集の調査

2014/12/04	ProplanX のオンライン教育コースと問題集を購入
2014/12/04～2014/12/21	ProplanX オンライン教育コース受講（21PDU 取得） PMI-ACP Application ドラフト作成
2014/12/21	PMI-ACP Application 提出
2015/01/01	Eligibility Letter 受領
2015/01/05	プロメトリック社にファックス送付と電話し、会場と受験日確定
2015/01/05～2015/01/15	教本の再読とまとめ
2015/01/10～2015/01/15	ProplanX 問題集の集中特訓
2015/01/16	PMI-ACP 受験（合格）

試験準備に要した時間は全部で約 70 時間でした。

私の場合は当初から受験予定日を決めていたので、それに向けて試験準備計画を立てていたのですが、予想通り（！？）途中でいろいろな障害につまずいてしまいました。結局、受験日が確定したのが約 10 日前で、試験に向けた本格的な特訓はそれからという、ひやひやの中での受験になってしまいました…。

教訓の一つとして、同じ PMI の試験ですが PMP の場合と異なる点がありましたので共有します。受験申し込み、会場申し込み、および受験当日の流れについては、基本的に PMP と同じなのですが、本稿執筆時点では以下の点が異なりましたのでご注意ください。

- PMP は日本語試験に対応していますが、PMI-ACP は英語試験しか対応していません。また、教本「PMI-ACP Exam Prep」自体も英語で記述されていますので、英語中心に学習していくことになります。そのため、内容を理解するまでに時間がかかりますし、英単語を調べる時間もそれなりにかかりますので、通常以上に余裕を持った計画を立案するのがおすすめです。
- PMI-ACP 試験の前提である 21PDU を取得するための研修には限りがあります。本稿執筆時点では、日本国内だけで取得することができませんでしたので、海外の PMI-ACP 用オンライン教育コースに頼ることにしました。調査した結果、[ProplanX](#) の PMI-ACP 用オンライン教育コースを購入することにし、受講後に 21PDU を取得しました。合わせて、PMI-ACP 用のオンライン問題集も購入しました。
- PMP の場合はプロメトリック社の Web サイトから会場や受験日の申し込みができますが、PMI-ACP の場合は申し込みできませんでした。事前にプロメトリック ID を取得し、所定の申込書に記入した上でプロメト

リック社にファックス（もしくは郵便）で送付し、その後プロメトリック社に電話して初めて確定となります。
詳細は[プロメトリック社の案内サイト](#)をご覧ください。

5 おわりに

日本では PMI-ACP 取得者はまだ 10 名程度しかいませんが、世界に目を向けると約 7,300 名が取得しており、グローバルにおけるアジャイル開発、および PMI-ACP 資格の浸透度がうかがい知れます。

また、近年では小規模のソフトウェア開発だけではなく、規模の大きなソフトウェア開発にアジャイルを適用したり、ソフトウェア開発以外の領域に適用したりする動きも活発になってきています。このような開発ではプロジェクトマネジメントの考え方がより重要となるため、プロジェクトマネジメントのアジャイル・プラクティスを包含した PMI-ACP の価値はますます高くなっていくものと考えられます。

現時点では英語の試験しかなく敷居が高いのも事実ですが、裾野の広がりにより「現地化」の動きも活発になるものと想定しています。このラリー・エッセイをきっかけとして、一人でも多くの方が PMI-ACP の資格に興味をいただき、そして取得していただくことを願っています。そして、取得した資格を活かして活動するとともに、後進を育みやすいような環境や仕組みを一緒に整備していきませんか？

[アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会](#)では昨年度に引き続き、PMI-ACP 取得に向けた勉強会や情報発信を行っていく予定ですので、興味がある方はご参画いただければ幸いです。

また、僭越ではございますが、[弊社の季刊誌 ProVISION](#)に「アジャイル・プロジェクトマネジメント～グローバル開発でのアジャイル適用～」というタイトルでアジャイル・プロジェクトマネジメントについて執筆しておりますので、こちらもあわせて一読いただければ幸いです。

6 おまけ

PMP に合格したのが 2009 年 1 月 16 日（金）だったこともあり、PMI-ACP の受験日を 2015 年 1 月 16 日（金）と、日付も曜日も全く同じ日に設定して験を担ぎました。ちなみに、この日は私の誕生日でもあります。ここは人によるとと思いますが、高い受験料と長時間の学習の末にようやく取得できる資格ですから、験を担いでみるのもいいのではないのでしょうか？

結果、無事合格できたので、縁起がよい日が継続されただけでなく、PMPとPMI-ACPでCCRのタイミングが全く一緒になるおまけもついてきました。PMI-ACPのCCR申請はPMPにも反映されますので、両資格の維持が楽になりそうでよかったです。

ちなみに、次回同条件になる日は2026年1月16日（金）と11年後になりますが、その日に別のPMIの資格を取得するかどうかは、現時点で誰も知る由がありません。（笑）